

指導資料



鹿児島県総合教育センター

国語 第113号

- 中・高等学校対象 -

平成21年5月発行

論理的思考力・表現力を高める国語科学習指導の工夫

- 「読むこと」と「書くこと」を関連付けた指導を通して -

生徒の学力の現状として、平成20年度全国学力・学習状況調査では、知識・技能を活用する力に課題が見られた。中学校3年の「資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄を明確に書くことができるかどうかをみる」問題（B1設問三）では、正答率が全国27.5%（県26.9%）であり、無答率も17%（県14%）であった。

また、高校3年を対象に実施された、平成17年度高等学校教育課程実施状況調査では、テキストに基づいて自分の考えや理由を述べる能力や、テキストから読み取ったことを再構成する能力について課題が見られた。また、無答率が30%を超える問題もあり、PISA調査で指摘されたことと同様の課題が見られた。

これらの調査結果から、中・高等学校に共通する国語科の課題として、テキストの読み取りを基に、筋道を立てて考え表現するという、論理的思考力・表現力を育成することが挙げられる。

そこで本稿では、論理的思考力・表現力を高める国語科学習指導の工夫として、「読むこと」と「書くこと」を関連付けた指導について述べる。

1 「読むこと」と「書くこと」を関連付けた指導の視点

論理的思考力は、自分の考えを根拠や理由を明らかにして表現する力と一体的に高めていかなければならない。

そこで、「読むこと」と「書くこと」を意図的に関連付けて指導する視点として、次の5点が考えられる。

(1) 読み取った内容を要約して書く(視点1)

資料（文章）に書かれた内容に対して自分の考えを述べる前提として、書かれた内容を正確に読み取ることがある。読む目的を明確にして、読み取ったことを書いてまとめることで、読みは確かなものになる。

要約することは、小学校の高学年から、説明的文章の学習で行われていることであるが、中・高等学校においても、生徒の実態や読みの目的に応じて、読み取った内容を要約するために適切な字数や条件を設定して書かせることが大切である。

(2) 読み取った内容について自分の考えを書く(視点2)

中学校新学習指導要領では、「自分の考

えの形成に関する指導事項」を新たに設定している。文章の構成や展開，表現の仕方について自分の考えをもたせることと，文章に書かれている内容について，自分の考えをもたせることが示されている。

読み取った内容について，自分の考えを述べるためには，根拠や理由を明らかにしなければならない。読み取った内容を自分の知識や体験と関連付け，自分の考えとして書いてまとめさせることで，論理的思考力・表現力が高められていく。

- (3) 筆者の考えや表現の仕方について建設的に批判する（視点3）

文章に書かれていることを，知識として無批判に受容する学習では，思考力・判断力は育たない。筆者の考えや，考えの根拠，表現の仕方等 について，適否・賛否などを判断し，批評する活動を意図的・計画的に取り入れていく必要がある。具体的には批評文や反論文を書く活動が考えられる。

建設的に批判する読みを高めていくことは，自分の考えを形成することにも役立つ。

- (4) 読んだ文章の構成等を生かして書く
（視点4）

「書く」ことを目的とすることで「読む」学習の必然性も高まる。要旨を踏まえた上で，論拠の提示や論理構成など筆者の意見の述べ方を参考にして，意見文として書く活動を設けることで，生徒は書く技能を身に付けることができる。

また，長い意見文を書くとなると，字数を満たすことができない生徒に対しても，教材文の構成，段落設定等を参考にさせる

ことで，論を適切な量で書き進めていく方法を理解させることができる。

- (5) 「読むこと」と「書くこと」を関連付けた言語活動を工夫する（視点5）

国語科では現行学習指導要領に言語活動例が示され，新学習指導要領では更に充実が図られている。そのねらいは次の2点である。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 指導事項を言語活動を通して指導すること。2 言語活動を領域を超えて総合的に行い、生きて働く力とすること。 |
|---|

そこで，言語活動例を具体化する際には，基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究する国語の能力を身に付けることができるよう，「読むこと」と「書くこと」を関連付けるなど，領域を超えて工夫することが必要である。

表1は新学習指導要領の「読むこと」，「書くこと」の言語活動例を抜粋し，想定される具体的な言語活動をまとめたものである。例えば，中学校3年では「読むこと」で文章を読んで「批評する」活動が提示され，「書くこと」では「批評する」文章を書く活動が提示されている。このことを踏まえ，説明的文章を読み，批評したことを基に，批評文を書く活動に関連付ける学習活動が考えられる。

また，ブックトークやポスターセッション，ディベートなどの活動は「話すこと・聞くこと」の領域に関係が深いものであるが，発表する内容を構成する段階では，原稿を書く活動が含まれてくる。発表原稿やメモを作成するという書く活動を意図的に取り入れることで，論理的思考力・表現力は高められていく。

表1 新学習指導要領国語科「読むこと」と「書くこと」の言語活動例

	読むこと	書くこと	「読むこと」と「書くこと」を関連付けた言語活動
中学校1年	<ul style="list-style-type: none"> 様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。 <u>文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。</u> 課題に沿って本を読み、<u>必要に応じて引用して紹介すること。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 関心のある芸術的な作品などについて、<u>鑑賞したことを文章に書くこと。</u> <u>図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。</u> 行事等の案内や報告をする文章を書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞文を作成する 説明文を作成する 記録文を作成する 案内文を作成する ポスターセッションをする ブックトークをする
中学校2年	<ul style="list-style-type: none"> 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。 説明や評論などの文章を読み、<u>内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。</u> 新聞やインターネット、学校図書館等の施設を活用して<u>得た情報を比較すること。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 表現の仕方を工夫して、<u>詩歌を作ったり物語などを書いたりすること。</u> 多様な考えができる事柄について、<u>立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。</u> 社会生活に必要な<u>手紙を書くこと。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 詩歌を創作する 続き話を創作する 意見文を作成する 手紙文を作成する ディベートをする
中学校3年	<ul style="list-style-type: none"> 物語や小説などを読んで<u>批評すること。</u> 論説や報道などに盛り込まれた<u>情報を比較して読むこと。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 関心のある事柄について<u>批評する文章を書くこと。</u> <u>目的に応じて様々な文章などを集め、工夫して編集すること。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 批評文を作成する 新聞記事を要約する 比べ読みする リライトする
高等学校国語総合	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで<u>脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。</u> 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、<u>課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。</u> 様々な文章を<u>読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>情景や心情の描写を取り入れて、詩歌を作ったり随筆などを書いたりすること。</u> <u>出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。</u> 相手や目的に応じた語句を用い、<u>手紙や通知などを書くこと。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 詩歌を創作する 随筆を作成する リライトする 意見文を作成する 報告文を作成する 批評文を作成する 手紙文を作成する 通知文を作成する ディベートをする

アンダーラインは筆者。「読むこと」と「書くこと」の関連が深い箇所

2 指導の実践例

次に、中・高等学校の研究協力員により実践された「読むこと」と「書くこと」を関連付けた指導事例を、先に述べた五つの視点を

踏まえて示す。

- (1) 要旨をとらえた上で、自分の考えをまとめさせる実践例（中学校3年・視点1,2,5）
教材文「メディア・リテラシー」（三省堂）を学習する必然性をもたせるため、導

入段階で実際に新聞の比べ読みを行い、メディアが伝える現実とは何なのかという課題意識をもたせ、教材文を批判的に読む視点を与えた。

また、単元の学習計画をたてる際に、教材文を基に小学校6年生向けの「新聞の読み方パンフレット」にリライトする活動を行うという学習の見通しをもたせることで、筆者の主張するメディア・リテラシーについて要旨を把握し、必要な情報を活用するという読む目的を明確化した。

教材文の論の展開や要旨をとらえ、それを基に、自分の考えをまとめ、説明文として「書く」活動につなげることで、論理的に思考し、意欲的に表現する生徒の姿が見られた。

(2) 筆者の表現を建設的に批判させる実践例 (中学校1年・視点2,3,5)

教材文「食感のオノマトペ」(三省堂)で図表の分析方法や筆者の主張を読み取った後グラフを分析してまとめたり、オノマトペを用いた詩を書いたりする言語活動を展開した。実際にオノマトペについて調査し、分析してまとめることで、筆者の分析方法や主張の妥当性について、本文を批判



図1 グラフを基に発表する様子

的に読むことができた。また、単元の終末で習得した知識・技能を活用し、表現するという見通しを生徒にもたせることで、学習意欲の高まりが見られた。

(3) 読んだ文章の構成をもとに意見文を書かせる実践例(高校3年・視点4,5)

教材文「生命倫理が変わる」(大修館)を読み取った上で、同一テーマ(生命倫理)で自分の意見をまとめる活動を行った。

教材文の論理の構成方法を踏まえながら意見文を書くことで、自分の立場を明確にし、根拠や理由を明らかにしながら文章を書くことができた。また、この学習が、大学入試の小論文等にも活用できることを理解させることで、書くことへの意欲を高めるとともに、学習したことを社会生活に活用する視点を与えることができた。

3 まとめ

「書く」活動については、時間を要したり、生徒の意欲が不足したりするという現状もある。それを克服するためには、読むことの系統性を踏まえた上で、指導の重点化を図ることや、書いた文章を生徒相互で読み、交流する機会を必ず設けるなど、学習活動のねらいを明確化し、生徒に学習の意義と達成感を実感させることで、学習の意欲を高めていくことが大切である。

「読むこと」と「書くこと」を関連付け、生徒や学校の実態に即した言語活動が、意図的・計画的に授業で展開されることを期待したい。

【参考文献】

文部科学省『中学校学習指導要領解説国語編』平成20年 東洋館出版社

(教科教育研修課)